

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

徳島県立川島中学校  
「学力向上実行プラン」

○ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践  
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICT(タブレット・電子黒板・デジタル教科書)を活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業に取り組む。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に取り組むので、基礎・基本は定着しつつある。 ●自分で復習する習慣が身に付いていない生徒がいる。	・自学・復習の習慣が身に付いている。 ・日々の授業に前向きに取り組む、基礎・基本を確実に身に付けている。 ・ICTを活用でき、自分に必要な情報を集めることができる。	・小テスト・単元テスト等を通して、スモールステップで、「できる」を実感させる。 ・質問タイムでわからないところを質問できるようにする。 ・デジタル教科書等を活用し、自分のペースで、くり返し学習に取り組めるようにする。(一問一答、計算問題等) ・ICTの活用の仕方を教える。			

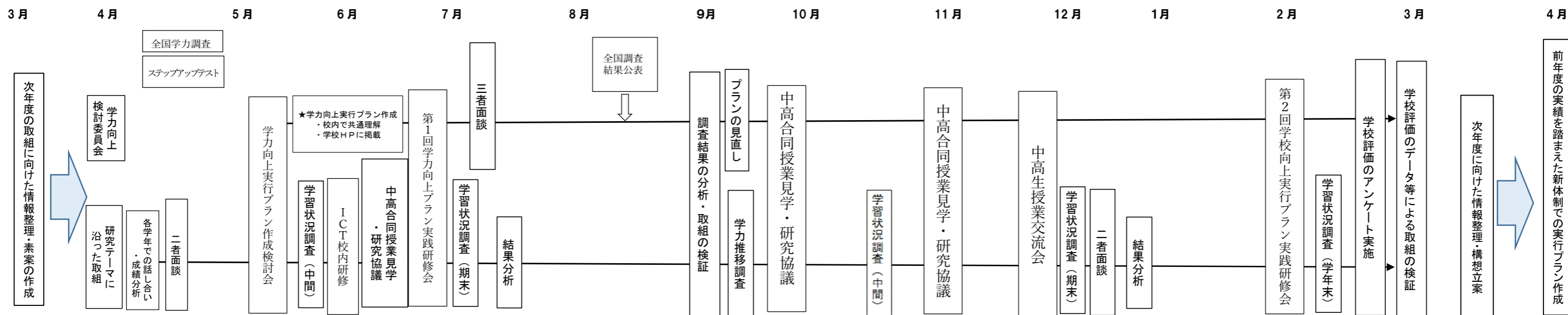
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ICTの使用にも慣れ、自分で工夫しながら表現できるようになっている。また、話し合いから考察したり、意見を交換することには積極的である。 ●主体的に考え、判断しようとしたり、他者の意見から考えを深めたりすることが苦手な生徒が多い。筋道が立てられず、知識の関連付けができないため、発展的な学習ができていない。	・仮説をしっかりと立て、「なぜ」、「どうして」などの発問を行いながら、考えを深めることができる。また、そのことを人に伝えることができる。 ・ICTを活用して、互いの考えを共有したり他者と協働したりしながら課題に取り組むことができる。 ・探究活動を通して、課題の設定をしたり、必要な情報を判断したり、自分の考えを自分なりに工夫して表現できたりする。	・仮説の立て方のフォーマットをつくり、流れを理解させる。 ・ペア学習や班学習などを取り入れたり、ICTを活用したりして、互いの考えを共有する場面をつくる。 ・ICTを活用して、発表等の言語活動を行う。また、自分と他者との意見を比較・検討し、考えを深めさせる。 ・総合的な学習の時間と教科の関連に気づかせながら、各教科で学んだ知識を生かして、考えることができるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業では落ち着いて学習に取り組めており、学ぼうとする意欲が高い生徒も多い。 ○学年表彰などを通して(セミナーテストなど)、主体的取組や自尊感情の育成につながっている。 ●決められた課題には取り組めるが、自分の弱点補強のために学習に取り組むことには課題がある。課題を出せない、学習時間が短い生徒が増えている。	・自分で調べたり、質問したりするなど、自律的・主体的に取り組むことができる。 ・目標や見通しをもって、学習に取り組むことができる。 ・たくさんの方法を知り、その中から自分に合ったものを選択し、活用できる。 ・先輩に学び、自分の将来の姿を想像し、未来を切り開く力を身に付けている。	・単元を通してのイメージマップを作成し、学びが深まったことを可視化し、自信をもたせる。 ・本時の目標や単元の目標等を生徒と共有する。 ・キャリア教育等を通して、やりたいこと、好きなことを見つけさせる。 ・週末課題等の在り方を教員間で話し合い、学校全体で自律的学習者をどう育てるべきかを考えていく。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 教頭:吉田和美 教務主任:安部恭美 社会科主任:庄野雄介 教諭 浦上 愛 国語科主任:日根通世 理科主任:田本祐太 数学科主任:上田義弘 英語科主任:門澤知恵
---------	---

校長

中村 ゆかり

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。